

おとくに

乙訓地域8000haの

野生生物を守る

Npo法人 乙訓の自然を守る会

乙訓の野生生物 8つのホットスポット

■大原野の平野

西山連山の急斜面のふもとには田畑、竹林、宅地に利用されている平野ですが、自然が残っています。フジバカマ(野生絶滅)発見の地で、キキョウ、イヌザクラなど野生桜5種、など多様な植物が生育しています。オオムラサキ、ヒメカマキリなど5種のカマキリ、モリアオガエルなど8種のカエル、ムササビ(大原野神社)、アマサギなど多様な動物が生息しています。



■光明寺周辺の里山

雑木林にはオオクワガタなど8種のクワガタ類やオオムラサキが生息しています。ナラガシワ林ではウラジロミドリシジミが飛びます。初夏の水田にはカブトエビなど3種のミジンコの仲間(生き化石)が発生します。キヌガサタケやクモタケ(冬虫夏草)、カゴタケなどキノコも多いです。アナグマなど10種の中大型哺乳類が生息しています(乙訓には全部で13種)。



■小塩山とボンボン山

(大原野森林公園を含む)
600m尾根の向こう側、川は高槻市や亀岡に流れ、トリカブト(キタヤマブシ)など草本が豊富です。山は新炭林の雑木林でカタクリや、石灰岩地帯にはフクジュソウが生育しています。ギフチョウやムカシントビ(生き化石)などが生息しています。



■外畑の盆地

標高400m、山間の水田地帯ですが、昔は大湿地だったと思われます。アヤマメやハナショウブの原種が見つかっています。カザグルマやクロゲンゴロウやメダカなどが生息しています。



■小泉川上流部と

奥海印寺周辺

小泉川は大沢峠420mが源流で、V字渓谷にはオオサンショウオが棲み、ミヤマカラスアゲハなど多様な昆虫、ヤノネシダなど多様なシダ、シマカンギクなどが生育しています。アオバトが生息し、渡りの途中のコマドリが来ます。平野部の小泉川ではオイカワが群れ、オニヤンマなどトンボ類が多いです。溜め池ではオオタニシ、田んぼではマルタニシが生息しています。



■西羽束師川流域

周辺に住宅地が迫っていますが、水田の素掘り水路にササバモ、コガマ、などの水草のほか、ミズウラボシなど湿性のシダ類が生育、ナマズやメダカ、タナゴ類やヨドゼラ(新種)、カネヒラなどの多様な魚類が生息しています。最近ナゴヤダルマガエルを確認しました。ケリの繁殖地であり、チュウサギなどサギ類も多いです。多様な水辺の生物の生息地です。



■桂川下流域

12haの河畔林にヒメボタルが生息。またアオサギが集団営巣し、その巣にキョウトビコブスジコガネがいます。昔の氾濫原でオグラコウホネが生息し、高水敷きにはミズアオイなど絶滅危惧10種の埋土種子が眠っています。戸原のカヤネズミや小鳥をねらってオオタカなど猛禽類7種が飛来します。本流には大量のアユやボラが遡上し、ヨドゼラ(新種)など多様な魚類が生息しています。魚を獲るタカ・ミサゴがいます。



私たちの合い言葉

自然を楽しみ、知り、学んで、守る

観察会 樹木も、草花も、虫も、鳥も、魚も、蛙も、みんな友達

調査→保護と保全 1種も絶滅させない。私たちが助ける

各グループが、絶滅危機の原因(環境ほか)を調べ、対策します。

① 環境を回復する(現地で保護、保全)

暗い森林や、外来種に覆われた草原を、手入れする。

鹿、猪が原因なら、防獣ネットを立てる。

水辺の外来種を除去する。

② 当会の施設で域外保全する(①の現地保護ができない場合)

植物は生態研究園(借り地)、水辺の生き物はビオトープ(借り地)で育てる